



詩歌鈔

瀟湘八景

鰲頭圖

瀟湘八景抄序

杜預トヨの危ヤシ傳デン乃ニ癖クセ有り。和嶠ワカの錢センの癖クセあり。楊
 氏ヤシの愛アイ士シの癖クセあり。劉氏リウの三サン乃ニ癖クセ有り。ま
 王家ワカの癖クセ有り。いづれもあつたやうに、
 待マテ成ナリ好コト之ノ冷ヒヤまぬる癖クセあり。たのころ倉クラ越ツクの
 乃ナリよろうとくさく病ヤメをくらひ、此ココ時トキわづか、
 癖クセをせや、いして玉タマ洞ドウうきふ、系ケイ瀟シウ湘キウの八ヤツ景ケイ
 と愛アイし。みづう抄セウし、尺シツ律リツうら、昼ヒルつきて一
 乃ナリ其コノ物モノあり。これ系ケイに心ココロ成ナリよせしむり、

人のすゝめけりかればまこと此の紫城くさ
 小虫くさへていさく小窓の眠とゆきまんと
 さるに奇殿のぬり為さるりい書物とん
 らひすす梨棗よりほさん事浅杯之里
 滅小やばりれくこと人もまことかめとあり
 止むと黄とめ取葉よか魚けりりの志あり

貞享三曆探梅天 一翠書



瀟湘八景詩歌作者目録

雪樵	南禅寺	瑞溪	相国寺	月舟	建仁寺	月翁	相国寺
天隱	建仁寺	祇蔭	建仁寺	雪嶺	建仁寺	柱悟	東福寺
周麟	相国寺	村庵	南禅寺	雪村	建仁寺	東沼	同上
竺雲	天龍寺	東岳	同上	雲章	東福寺	東旭	

唐人

王礪	南宋	許道寧	宋	董源	宋人	李唐	宋人
開同		范寬	宋	惠崇	宋		
洪滄浪	朝鮮人						

歌人

為相	冷泉中納言	為兼	泰大納言	明魏	大納言長雅法名	傾阿
----	-------	----	------	----	---------	----

後小松院 人皇百代壽幹仁 永德明德應永永享
 榮雅 權大納言 雅親卿
 宋世 飛鳥井 雅康法名
 為尹 權大納言 正二位
 雅世 權中納言
 逍遙院 西三条内大臣 法名堯空
 桂祐 權少將源国永 法名也

詩歌作者 三十五人
 詩負 九十九首
 歌數 八十八首

瀟湘八景目錄終

瀟湘八景詩歌

瀟湘夜雨 玉碕 西湖淨慈寺僧
 古渡砂平漲水痕 一逢寒雨滴黃昏
 蘭枯蕙死無尋處 短些難招楚客魂
 今雪樵 蘭坡護景 正因庵寮 日雪樵 或曰善秀 林仙館
 浦雲作雨度江城 添得洞庭歸客情

瀟湘八景詩歌鈔

瀟湘八楚國中ニアルニ水ノ名ナリ。瀟湘水道列ノ九疑山ノ中ヨリナカレテ。湘水ハ桂林海陽山中ヨリナカレテ。靈渠ヲヘテ零陵ニイタリテニ水ヒトツニナカレテ。是ヲ瀟湘トハ云也。コレ永列ナリ。永ハ二水ノ心ナルヘシ。此浦絶景ニテ天下ノ大觀ナル故ニ詩人多ク心ヲヨセタリ。此處ニ九疑山ト云山アリ。峯々九ツミヘ

逢底今宵可無憂

窓前疲馬嘯其聲

全 瑞溪 諱周鳳号 后土御門時人有集 名卧雲藻相國寺

湘江夜雨不勝情

孤客舟中夢易驚

誰把二妃千斛淚

逢底滴作斷腸聲

全 月舟

湘南何地最多愁

班竹叢邊風雨秋

今夜二妃難入夢

蕭々喚起辟陽侯

全

清泛三湘夜中艫

聽雨眠楚天聞過

鴈北客未歸船濁

酒飲無筭青燈冷

不煙對床工覓句

達且是新鮮

全

昏昏風浪裏瑟々

テイツレモヨク似テ疑キユヘニ九疑

ト名ツクル也傍ニハ蒼梧野ト云野ア

リ古虞舜ノ二妃娥皇女英舜ノ別

ヲ悲ミ給ヒ此浦ニ身ヲ放キ玉ヒレ

ナリ其廟所モ今ニアリト云ヘリ大舜

ハ賤キ田夫ノ子ナリ楚國ノ傍ニ瞽

叟ト云者ノ子ニテ重華ト云ヒ人ナ

リ孝行深甚ニ昔モ今モ並ナキ聖

人ナリ實母ニナレテ繼母ニツカヘ玉ヘ

リ繼母重華ヲ惡ミ實子ノ象ト云

ル子トトモニ鼓曾叟ニサヘヲナレテ重

華ヲ害セシヲハカル或ハヤ子ヲフカ

セテ其屋ニ火ヲツケ焼コロサントレア

ルトキハ井ヲホラセテ埋ニコロサント

スレハ重華ツイニカレエテイヨク

孝悌ヲツクセリ堯王ソノ孝心ヲキ

コシメレ御女ノ娥皇女英ノ二女ヲメ

アハセツイニ天下ヲ譲リ玉ヘリ其後

舜三苗ヲ征ソ路ニテ崩レ玉ヘリ二女

コカシ慕テ紅淚ヲナカレ其カタハラ

打蓬聲騷客千年

恨靈妃萬古情

為兼タカス 二条大納言 玉葉集撰

秋のゑにうそねは流し
ほくろくろくろり

明魏タケキ 大納言長 雅之法地 花山院左大臣實 雅公子

吳竹を深し洞や

秋のゑにうそねは流し

秋のゑにうそねは流し

竹景詩

ノ竹ニソ、イテ竹ミナ紋ヲナス。是ヲ

湘浦ノ班竹紫竹トハ云ナリ。竹班

湘浦雲凝鼓瑟蹤ト云ヘルモ是ナリ。

古歌ニモ紅ノコソメノ小袖ウヘニキン

戀ノ涙ノ色カハルヤト、忍戀ノ心

ヨメリ。血ノ涙ノイナリ。此事ヲ奥ノ詩

ニモ作レリ。サテ八景トハ八陰ノ極数

ナリ。地ハ陰ナリ故ニ八景トスルナルヘレ。

六景十景十二景ナト皆陰数ナリ。

此詩ノ作者古鈔ニ白居易カ詩トセリ

頓阿小野宮大納言 言能實マ六 代孫俗名泰 翳

弘ともし入は杖痕乃

何れもも店跡の家

面はらうか

後小松院

水上れあるれ家子

手かけて雨を我まぬ

よれの浦風

為尹タメニヤ 冷泉大納言 中乃乃那子

をりし浦風舟の波

或説ニ東坡ガ詩ナリト云リ。皆アヤ

ニリナリ。此詩ハ玉礪ノ作也。瑩玉礪

ハ南宋ノ代ノ詩人ナリ。善山水ヲ登

カケリ。惠崇ヲ師トシテナラヘリ。西

湖ノ淨慈寺ノ僧ナリ。圖繪寶鑑ニ

其傳アリ。日本ノ登ヲ學ブ者玉礪ヤ

ウト云ハ此人ノ事ナリ。又別ニ孟玉礪

ト云アリ。是人モ詩畫ヲ工ニセリ。其

外董源范寬許道寧李唐等詩

畫ニ長セル者勝テカソヘガタレ

八景詩

三

吹乃うも横ぬに
今やまねん

雅世 飛鳥井中納言
言法名祐雅
古今撰者大納言
雅縁郷子也

独ぬいひの常も
わねいようさねの
よぬのむら

栄雅 飛鳥井中納言
言法名文明
五年出家

うす枕かしく神も
波越くさともさぬ

秋まれむらぬ

道遥院 西三条
内大皮
實隆法名亮空
又号睡雪

竹乃紫の色深し
同も秋ふりさぬ

沙弥桂祐 権少
将源
國承之法名也三
光院点并興書

秋城ふら官らぬ乃
喜ふけは波も絲光の
枕りたうく



八景詩

四

瀟湘夜雨

先自空の易勢免

凍雲粘雨濕黄昏

孤燈遙裏睡蕭瑟

祇向竹枝添淚痕

女子よす浪もさる記

秋乃あま城と雨らるる

雲もたう家

八景詩

五

物乃多もすほみん
管絃らゝ面と浪の
よねの志とふ

洞庭秋月

玉碯

四面平湖月満山
了螺髻鏡中看
岳陽樓上聽長笛
訖畫崎嶇行路難
全 月翁 諱周鏡
又号交芦相国寺僧也

瀟湘夜雨

先自空江易断魂凍雲粘雨濕黃昏
孤燈逢裏聽蕭瑟祇向竹枝添淚痕
○此詩ハコノ浦ニ娥皇女英ノ廟アルユヘニ二妃ノ事ヲ思出テ全篇ニヘタリ第一ノ句ハ二妃ノ事ヲ思フニトナク物カナレキ故ニイマタ雨ノアラヌサキヨリ魂ヲタチヤスレトナリ心ノイタマレキヲ云ナリ一説ニ昔ノ舜ノ二妃ノヲ思フニ其江ノ景

暮雪晴嵐眼底塵

瀟湘何景最驚人
洞庭七十朶巍峭
上有頰雲月半輪
全 瑞溪

夕照統殘淡似煙

何人緩步出村前
洞庭湖上月應好
欲倩漁郎棹夜舩
全 月舟 諱壽桂号
一華建仁寺僧編續錦綵段博識僧

ハ昔ニカハラ子凡人ハ過去テ空キ

江ナレシニ女ノ舜ヲ慕テ悲ミ玉ヒレ

事ナトヲ思出テ魂モキユル詩モノア

ハレナルトナリ我心ニ哀ヲ催スユヘニ

ト雨モ物サビシク思ハル也故ニ雨

アラヌサキヨリハヤ此浦ニイツレハモ

ノカナレキ也夕サレハ野ニモ山ニモ

煙タツ思ヒヨリコソモヘソムルナレ

歌ニ比ノ此句ノ心明カニナルヘシ○第

ニ句凍雲トハコレル雲ナリ粘雨ト

氷輪^{ヒツリン}逐^{ツク}影^{カゲ}洞庭^{テイテイ}波^ハ
今夜^{コノヨ}騷^{サウ}人^{ジン}詩^シ興^{キョウ}多^タ
八^{ハチ}百^{ヒャク}里^リ秋^{アキ}天^{テン}在^在水^{スイ}
姐^{イモ}娥^カ却^カ是^シ作^{シテ}湘^{シヤウ}娥^カ
全^全 許^{キョ}道^{ダウ}寧^{テイ}
自^ジ水^{スイ}連^{レン}天^{テン}遠^{エン}吳^ウ松^{ソウ}
一^{イチ}頃^{クワン}秋^{アキ}橋^{キョウ}列^{リツ}水^{スイ}魄^{ハク}
滿^{マン}竹^{チク}閣^{カク}桂^{ケイ}萃^{スイ}留^{リウ}鳥^{トウ}
鴈^{ガン}不^フ飲^{イン}咏^{エイ}魚^{イサ}龍^{リウ}與^ユ
拍^{パク}浮^フ垂^{スイ}虹^{コウ}寓^イ今^{イマ}夕^{セキ}
清^{セイ}勝^{ショウ}庾^コ公^{コウ}櫻^{オウ}

公^{コウ}雲^{ウン}ハア^ハメ^メニツ^ツキ^キ雨^{アメ}ハ^ハ雲^{ウン}ニツ^ツク^クモ^モノ^ノナ^ナル
ユ^ユニ^ニ云^{ウン}ナ^ナリ^リ。黄^{ワウ}昏^{コン}ハ^ハ暮^モ方^{ホウ}ヲ^ヲ云^{ウン}濕^{シツ}ト^トハ
雨^{アメ}ノ^ノフ^フル^ル体^{テイ}ナ^ナリ^リ。三^{サン}四^シノ^ノ句^クモ^モ二^ニ妃^ヒノ^ノ事^ジヲ^ヲ
思^シ出^{シュ}テ^テ作^{サク}レ^レリ^リ。孤^コ燈^{トウ}蓬^{ホウ}裏^リハ^ハヒ^ヒト^トツ^ツノ
燈^{トウ}ヲ^ヲト^トノ^ノウ^ウチ^チニ^ニト^トモ^モレ^レテ^テサ^サヒ^ヒレ^レキ^キト
也^ヤ。聽^{キク}簫^{セウ}瑟^{シツ}ト^ト笛^{フエ}方^{ホウ}ノ^ノ遊^{ユウ}船^{フナ}ニ^ニ簫^{セウ}笛^{フエ}ヲ^ヲ
フ^フキ^キ瑟^{シツ}琴^{キン}ヲ^ヲヒ^ヒク^ク。其^{ソノ}音^{オン}管^{カン}フ^フキ^キノ^ノワ^ワガ
船^{フナ}ノ^ノ中^{ナカ}ヘ^ヘキ^キユ^ユル^ル也^ヤ。コ^コレ^レニ^ニヨ^ヨツ^ツテ^テ湘^{シヤウ}妃^ヒ
ノ^ノ琴^{キン}ヲ^ヲ弾^{ヒキ}レ^レテ^テ思^シ出^{シュ}ノ^ノ感^{カン}淚^{レイ}ヲ^ヲ催^{モヨソ}
スト^{スト}ナ^ナリ^リ。一^{イチ}説^{セツ}ニ^ニ夜^ヤノ^ノ雨^{アメ}ナ^ナレ^レハ^ハ蓬^{ホウ}ヨ^ヨリ^リツ^ツタ

全^全
万^{マン}頃^{クワン}玻^ハ璃^リ上^{ジョウ}輝^キ
玉^{タマ}一^{イチ}環^{カン}望^{ボウ}中^{チュウ}青^{セイ}似^ニ
粟^ム薄^{ハク}暮^モ是^シ君^{キミ}山^{サン}
為^{タカ}兼^{ケン}
波^ハノ^ノ上^{ジョウ}子^シ里^リの^ノ名^ナ跡^{セキ}
叙^{キョ}す^ス丸^{マル}て^テ月^{ツキ}よ^ヨの^ノま^マぬ^ぬ
は^ハ方^{カタ}た^タら^ラし^シか^カ
明^{メイ}魏^{エイ}
沈^{シン}の^ノ心^{シン}を^ヲ心^{シン}に^ニぬ^ぬ
ん^んて^テく^くる^る欠^{ケツ}口^{コウ}ま^まる^る

ヒ^ヒト^トク^クト^ト落^{ツク}ル^ル声^{コエ}ヲ^ヲキ^キク^クニ^ニ琴^{キン}ノ^ノ音^ネノ^ノ
ヤ^ヤウ^ウニ^ニキ^キユ^ユル^ルナ^ナリ^リ。迴^{マユ}檐^エ點^{テン}滴^{テツ}如^ニ琴^{キン}筑^{チク}
ノ^ノ意^イナ^ナリ^リ。サ^サル^ルニ^ニヨ^ヨリ^リ二^ニ妃^ヒノ^ノ琴^{キン}ヲ^ヲ調^{テウ}玉^{ギョク}ヒ
レ^レテ^テア^アル^ルト^ト今^{イマ}キ^キク^クヤ^ヤウ^ウニ^ニ思^シ出^{シュ}ス^スト
ナ^ナリ^リ。コ^コノ^ノユ^ユニ^ニ紫^シ竹^{チク}班^{バン}竹^{チク}ノ^ノ枝^{エダ}ニ^ニム^ムカ^カツ^ツテ
昔^{ムカシ}ノ^ノ哀^{アイ}ヲ^ヲ思^シヒ^ヒ淚^{ナミダ}ヲ^ヲソ^ソヘ^ヘナ^ナカ^カス^スナ^ナリ^リ。淚^{ナミダ}
痕^{コト}ハ^ハナ^ナミ^ミダ^ダノ^ノア^アト^ト也^ヤ。二^ニ女^{メウ}ノ^ノ淚^{ナミダ}ノ^ノア^アト^トニ
今^{イマ}モ^モ夕^{セキ}涙^{ナミダ}ヲ^ヲソ^ソヘ^ヘル^ルト^トナ^ナリ^リ。殊^{シユ}勝^{セウ}ノ^ノ作^{サク}ナ
リ^リ。ツ^ツラ^ラク^ク吟^{ギン}レ^レ味^{アチハ}ヒ^ヒテ^テミ^ミル^ルヘ^ヘシ^シ。
船^{フナ}ヲ^ヲ載^{ナリ}シ^シは^ハ奈^ナな^なき^き教^{キョウ}乃^ノ雨^{アメ}試^シ

波乃止此月

秋阿

すむ唐の巻も尾止
海て月をいづぬ
秋乃山陰

後小松院

あはれうかたはれ
阿さうにみまて
月の影を

為尹

秋風も磯を此松か

と海よりくれ志のく我一か

け八景乃哥ハ冷泉中阿云為相阿の

作なり。為相阿定家郷の孫なり

大阿言家阿乃子なり。たりろ

う歌をれゆへもろここれ待よか

まろ日午も右人の詩かおほく

見たり。為兼明魏頓阿後小松

院。為尹雅世采雅道遙院柱松の

あけ懸まろよあれおあ。げあ

乃心のあうに松とよす候と浪

吹せひく月より
すまら此節

宋世 從二位權中納言二樂軒

限を此き山ゆれ
尺つづく波此中
月うまわけ

采雅

沈月も氷波く浦
風より此をれ
秋風ゆ波

道遙院

乃喜たくもあすは海く志く

雨のゆふあいまされてこいぬ

よしかり。あまらり管よりく

れ志づくにるぬ乃あをば志き

あとあり。あまぬあなれくあ

あはじ。このゆふ侍も風黄昏

といはくまら。地かあるああり。又

の院も大雨もくあああ。はま

ありあさうーとくアそれあ

下の句をこそされあり。

月影此夕の波
影にてはり家
秋風うき

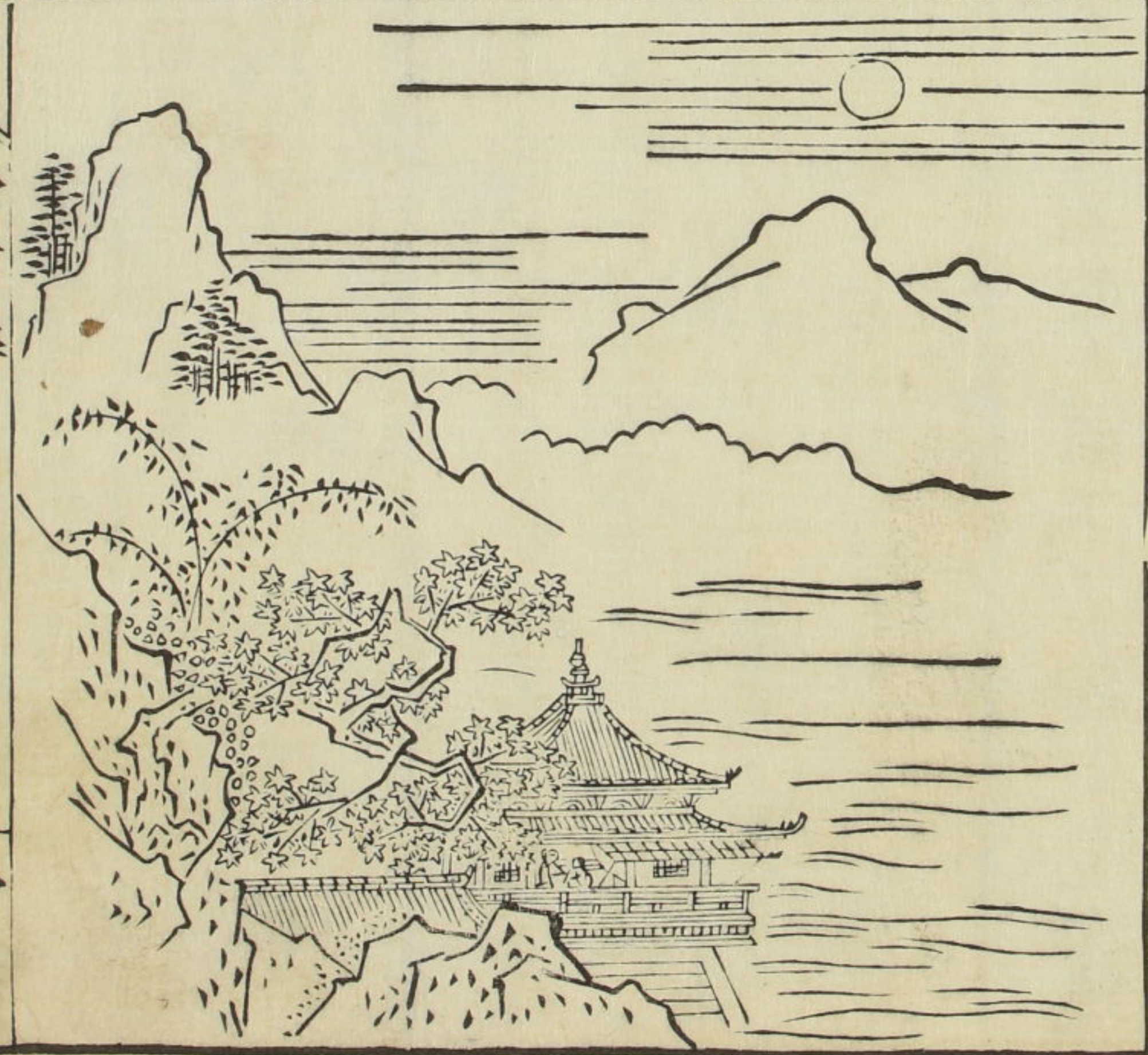
桂祐

秋文てすろく
心すすこれん
月成えれも
秋風月此の
すいさか
く
く
遠寺晚鐘

洞庭秋月
西風剪出雲天
萬頃蟠波浴桂
漁笛不知霧客恨
木吹雪影包道
秋小坐心水吟
易けて月成を
松文川志る波

玉碯

鐘送斜陽出暮山
遙知煙寺隔前湾
山翁莫怪滯来晚
欲待峯頭月上還
全 天隱 謹 龍澤号
寺大昌院住僧也撰
錦綉段有黙雲集
山童背立伴僧行
偶訪村家喜快情
空翠湿衣飯踏遠
片雲碧冷暮鐘声



八景寺

同 瑞溪

紫翠陰く擁上方
疎鐘幾杵向黃昏
殘聲風外度湘水
隔岸行人歸路忙

同 月舟

風送疎鐘度翠微
山行踈險奈斜暉
寒鴉飛盡杵聲急
百尺長橋人獨歸
同 董源 宋人畫南唐
工畫山水

洞庭秋月

西風剪出暮天霞
萬頃煙波浴桂
花漁笛不知羈
客恨直吹寒影過
芦花 ○九疑山ノ麓ニ興アル洞アリ
洞ノ中ニ樓臺ヲ作りテ月ヲ見トナ
リ。第一ノ句ハ秋風ノソヨク吹ニ付テウ
ス霞ノ棚引テイヲ云。西風トハ秋ナリ
霞ハ春ニカキラスイツモアルモノ也。詩ヲ
作ニ霞雲霧煙四ツノ聳物ヲイツレ
ナリ。其時ノ韻ニ随テ用ルナリ。此カ

金碧招提古高峯

最上層喧風僧入
梵宿霧佛前燈
觀延空寂蒲牢急
震凌黃昏山踈險
窟步一枝藤

同

僧定鐘聲緩依倚
聽不真渡頭風正
急喚醒未歸人
同 為魚

スミハ雲ト意得テモヨシ

秋ノクレツ方
山ノ端ノ月モハヤホノメカント櫻上ニ
ホリテミレハ秋風ノモノスサニクアラ
カニ吹出テ彼山陰コノ林ノ奥ヨリ
雲ヲハコビ出ス躰ヲミレハ天津空ヘ
風ガ剪出スヤウニミユルトナリ。万頃
トハ頃ハ百歩ナリ。一万頃ハ三千里ホ
トナリ。水面ノ廣ヲ云。煙波トハ波ノタ
ツガ烟ノ如クミユル体ナリ。波間ニ月
影ノミヘツカクレツスルハユアミスルヤ

世よゆれ人街の
望く也を山さ北
木くくれ乃後

明魏

今そふれおれ八音山
わ被すて人守ぬ
入ねのか

松阿

岸らう心そのとれ
寺又て磯山ゆき
後乃きか

ウナルヲ浴スト云ナリ。桂花八月ヲ云

水月ノ体ヲアリクト云出セリ。漁笛

ハ漁人ノフク笛ナリ。漢ノ丘仲ト云モ。

カレカト云魚ノ鳴ヲキテ初テ笛ヲ

作レリ。丘仲吹之魚汀ニ集ルトナリ。

彼カレカハコロクト鳴ナリ。或哥ニヨ

クト小石ナカル。山川ニ夜ハ明ケリ

トシカナクナリ。ト云々西風キリイ

タス如クナレハ自浪ヒルガヘリテ波ノ

枕モサタニラス古郷ヲ戀ルノミニテ

後小松院

尻よとをいりなり
手ぬれゆれぬの

入ね乃後

為尹

入ね乃後
おくれておきぬ

松心か立

宋世

重ふれ山らむか
守ゆわほ世れか

アハレヲ催スルヲリフレ。漁人カ笛打

フキテ月ニ釣ヲタレテ何心モナク

花浅水ノ邊ヲ打過ルナリ。羈客ハ

旅行ノ客ヲ云。此詩人ミツカラ我ヲ

云ナルヘシ。漁人ハ羈客ノ心ニウレヒア

ルモシラス。釣ノイトナミニ心ヲイル也。

寒影ハ月ノサヘタル影ナリ。又イワク

羈ハトラキ旅ヲ云。バルカニ故郷ヲヘタ

テタル客ナトハ月ニハコトニフルサトヲ

思ヤリテ物カナシキニ。笛ノ音ノア

八景詩

入道乃子

采雅

ほ乃乃れ入道乃
のさ乃格乃山乃
奥乃古寺

道遠院

乃乃の俺乃尾乃の屋
上煙乃承乃いれん
後乃乃りしと

極祐

乃乃乃乃乃乃乃

ハシナルヲ聞テタヘヤラヌ体ナリ

秋ノ中心水冷しくさよゆめて

月桂ひしせぬおら乃乃乃乃

おら乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

さゆし乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

月乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

遠寺の曉鐘

雲底不見梵王宮

教と鐘乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ゆん志つたゆむ

入乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

遠浦帰帆

玉礪

無邊刹境入毫端

帆落秋江隱暮嵐

残照赤収漁火動

老翁閑自説江南

全 正宗 諱龍統 号 群玉峯 建仁寺 靈泉院 僧瑞巖 弟子

一舸洞庭波上秋 天書落手北歸不

柳帆風順挑千里 不送誰門捨棹留

全 瑞溪 片帆飛去碧天涯 為報清風著意吹

落日湘江前 踏遠 南游孤客北歸時

全 月舟 臆雪已消春水多 飯帆萬里逐風過

請看一幅弓彎影 天未黃昏月落波

李唐 登山水 巖箭風帆下春江 不盡流客來登快

閣天際識飯舟裂 眈明千里觀身等

一漚斜陽疏木外

全 遠寺晚鐘 雲遮不見梵王宮 殷々鐘聲訪晚

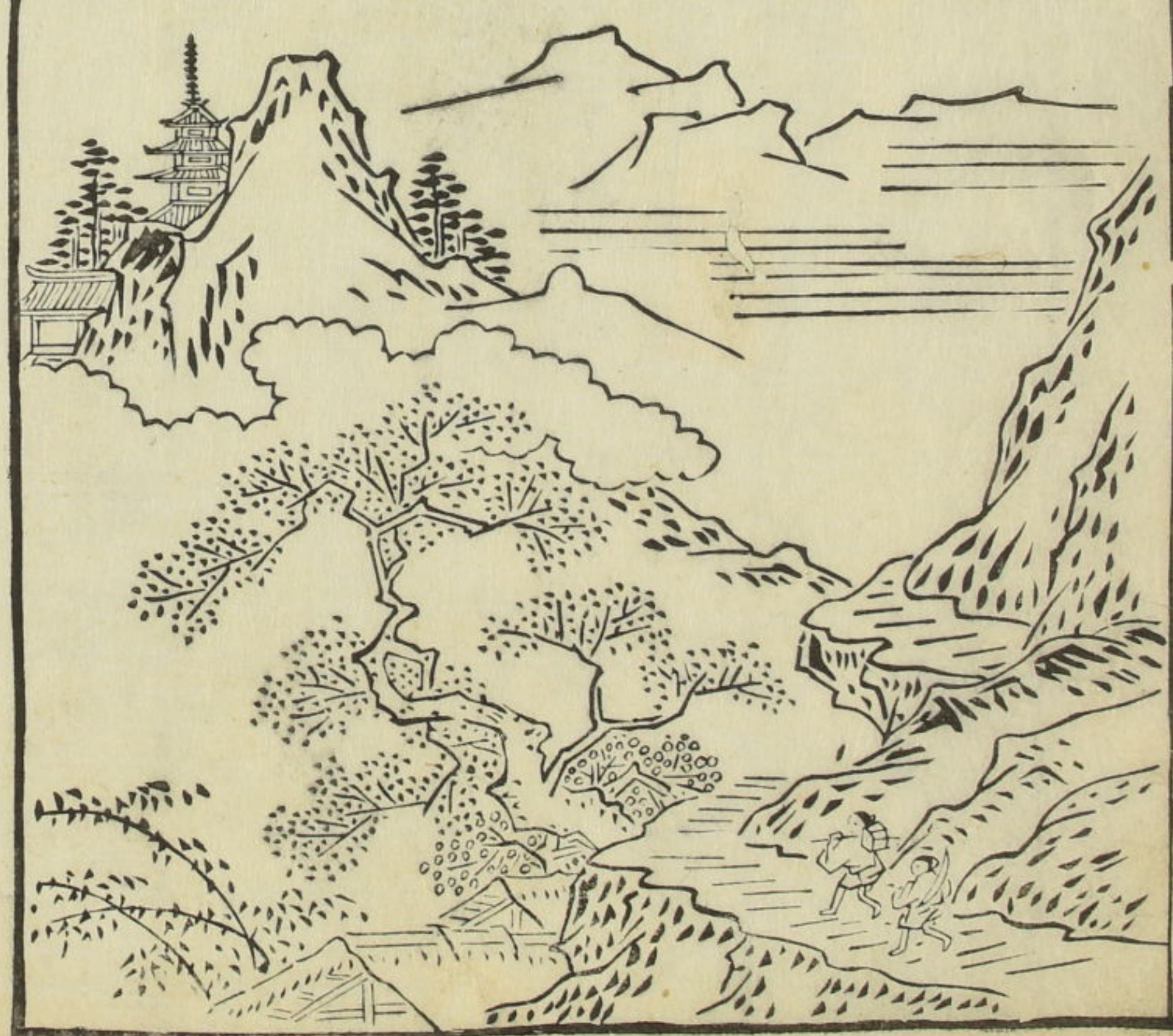
風此去上方猶遠 近為言只在此 山中

○全篇遠寺ノ晚鐘ノ体ヲアリ くと作レリ第一句ハ梵王宮トハ寺ノ異名ナ

リ。雲遮ハ遠キ山寺ナレハ雲ヲハタテ 見ヘヌソ。殷々鐘ノ響音ク也也。訪ハ此鐘

ノ声人ニ向テ訪訟ヲ云ヤウナルト也。何ト 訥ルソトイハ今此鐘ノキユル寺ハ餘

ニ程遠クハアラス雲サヘキツテ見ヘ子ト



八景詩

五南不遲留

全

八景瀟湘妙歸舟
更色絲根煩小
住我賦式微詩

為兼

漢舟あつて海はまじ
みつれ風よまじひて
これ久あかり

明魏

秋風北を吹海はあけて

海士人の宿いそこと
かんれよまじかき海
まじりては

後小松院

浦風北を吹て海は
仲の約あ

為尹

頓テ此山中ニアルゾト訪ル也上方ト云

モ寺ノ名也湖南有之杜庵ノ義銘初

位鹿苑後住上方也長列有鹿苑寺見

江湖集注第三句作者ノ意ニ思ラク

寺ハ何方トモミハス遠ト思ハ又鐘ノ声ハ

アルト此寺ハヤガテ此山中ニ有ト告渡

ルヤウナルゾト也近比面白キ作意也

一説ニ猶遠近ト云ハ晚風ノケレク吹ナ

ハ鐘ノ音風ニ随テ近クモ聞ヘ又遠ク

モ聞ヘテ寺ノ遠近モシレカタク也古抄

ニ梵王宮トハ瀕弥山ノ頂ニ梵王天ノイ

ラス所ヲ云也句ノ意ハ瀟湘ノ浦ナ

レハ九疑山ノイタキニ古寺ノ跡アリ

テ朦朧タル雲霧ノ内ヨリヲホロク

ト入相ノ鐘ノ咽ヒクルヲ聞ニ彼山キワ

メテ高ク聳テ寺ハ見え入雲中ヨリ

鐘ノミ響音トナリ扱ハ此入相ハ下界ニア

ラス上界ノ梵王宮ノ鐘カト疑ヒタル

体ナリト云リ異説ナリ

善うくお空よりわつふ清れきに

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

宋世

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

栄雅

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

逍遥院

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

桂佐

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

蓬浦帰帆

鷺粵青山一栞秋
湖平浪接天流
歸櫓漸入道花去
家在夕陽江上頭

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

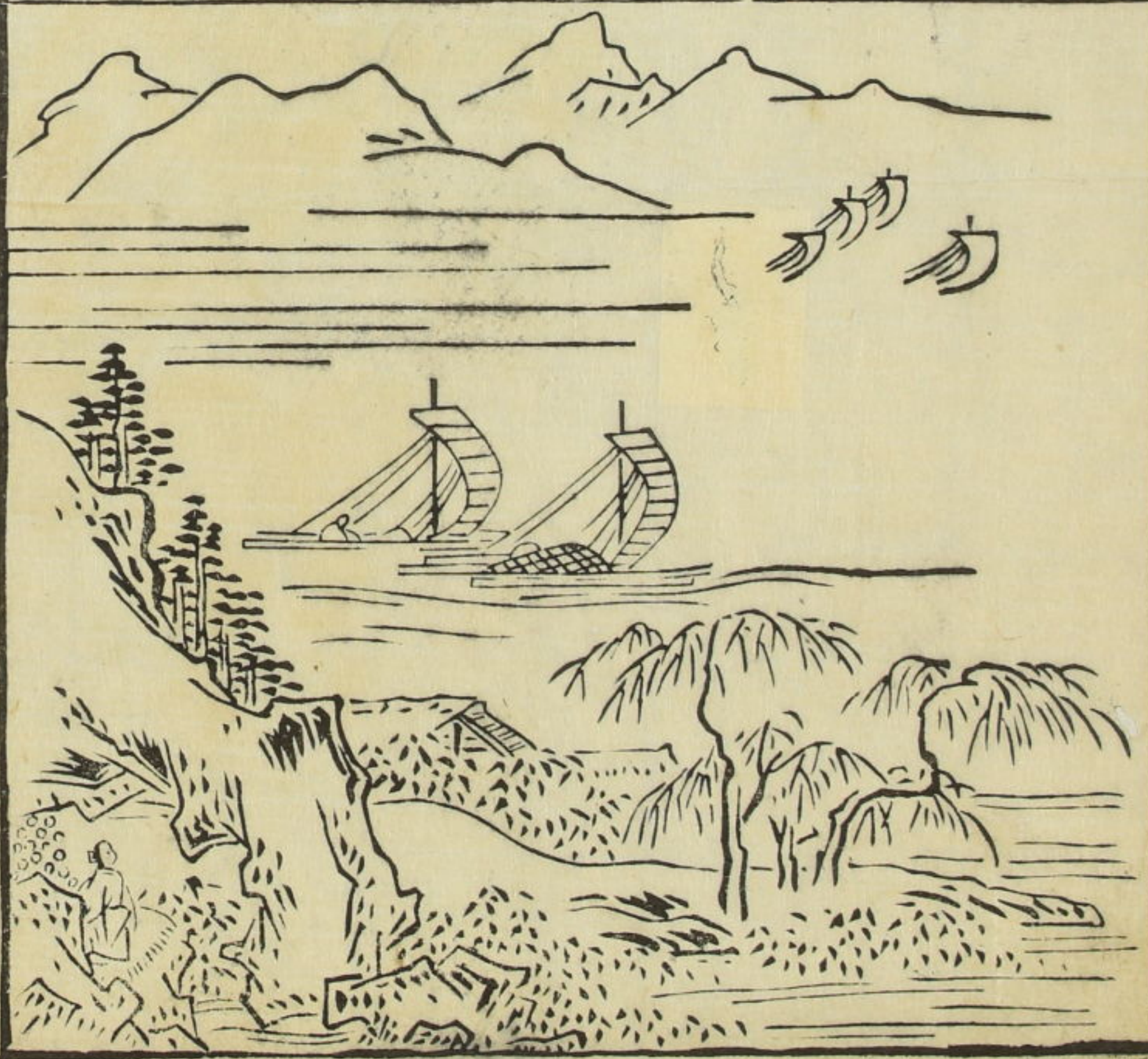
舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

舟をたはしむる舟に
ゆかんたはしむる舟の
誘ふならにたり

山市晴嵐

玉礪

雨挹雲脚飲長沙
隱々残虹帶晚霞
尤好市橋官柳外
酒旗搖曳客思家
今 祇蔭道号繼章
嵐靄藏春屋數椽
過橋村叟去忙然
市門爭利錐力未
水色山光不真綿



遠浦帰帆

鷺界青山一林秋潮平銀浪接天
流帰檣漸入蘆花去家在夕陽江
上頭 ○二ノ句ハ水上江山ノ体ヲ云ナリ
鷺鳥界トハ鷺鷥ノ集リ居ル取ヲ云一林
ハ林ハコスエトヨメリ 株ニ作ルハ誤リ也異木
ヲニレエス葉ハカリ一様ニミユルユヘ一林ノ
秋ト云ナリ 意ハ青山ノ緑ノ中ニ白鷺鳥ノ一
スギニミユル体ナリ 或歌ニ松原ノミトリノコ
ナタ飛サキノ真砂ニ落テキユルカケカナ

瑞溪

嵩隈茅店似鷄栖
竹樹荒涼踏欲迷
無價青山人不買
夕嵐留在市橋西
今 壽桂
花時山郭不全貧
白髮耳為堯舜民
風動青帘市邑散
太平象在一盃春
今 開同

敷澤赴鹿久崇朝
宿雨晴蒼崖林影
動老木日華明野
店炊煙濕溪橋流
水聲青帘何處是
彷彿聽鷄鳴

トヨメリ。言コ、ロハ白鷺ノ松ノ緑ニウツラ
フトキハ見ユレ、庄真砂ニヨリテハトモニツ
ノ色白キ故ニ踏ヲ見失フト也。此詩
カナヘリ。第二ノ句銀浪ハ浪ノ白キヲ云。
潮ノヒヤウクト廣ヲ見レハ天ニツキテ
流ル、ヤウナリ。第三ノ句題ノ意ヲツ
ノ、吟レ出セリ。檣ハホハシラトヨム
漸ハセンクニト云心ナリ。帰帆ナレハコナ
タノ汀ノ芦原ノホトリへ入サルトナリ。
芦花トハアシノホヲ云ナリ。此体ヲ

如見院僧有集名
梅溪集後相原時
市倚山隈深處開
過橋來者只求財
朝山暮水不貪空
日幾幾人空手回

ミレハ漁人氏ノ家ハ定テ夕日ノサレウツ
ル入江ノホトリニアラントナリ。一説ニ踏鳥
界青山トハ界ハ踏鳥ノ多クムラカリ遊
フトコロヲ云。コレハ真ノ踏鳥ニアラズ。帆
ノ多クツラナリカヘルヲサキノヤウニミ
タルナリ。青山ハニトノ山ニアラス。漸ノ
天ニ接ノ流ルヲ一様ノ緑ノ山ニミタル
也。青山ノウヘニ白踏鳥ノ多クムレイル
ヤウニ思ヒタレハ夕暮ニカヘル帆トモノ
多クツラナルニテアリレヨシナリ。界ハ

すかてぬぬ嵐よ
ゆらく市人

後小松院

何れ尾のよれ松

雪消く^{フモト}禁^{フモト}よき

さやれ市人

為尹

中よりふきぬも

立にかり^{イナダ}市場^{イナダ}北よの

山をみゆ

宋世

サカフトモヨムナリ。青山ノ中ニ白ク水キハ
ヲタテ、ハツキト見ユル体ナリ。

風むよ雪おうる浪のよとみく

はりきぬる浪よかへる人

○あ乃心のあれらるる浪のぬもよの

雪消りて海よとらんまは風吹あ

れくあまをれらるる浪の雪も

いひかけをぬるり。とれをゆす

人もはりをやせとぬるり

とあり

